

AAALA ニュース 第 147 号

内容紹介

01 ガザでのジェノサイドの可能性を警告する学者たちの公開声明

世界の国際法学者ら 790 人が署名した共同声明。イスラエル地上軍によるガザ侵攻前にだされたが、「ジェノサイド」と認定する国際法上の十分な根拠があると詳述されている。

02 ガザ「持続的な人道停戦を求め」国連総会決議

10 月 27 日、国連第 10 回緊急特別総会で、決議「敵対行為の停止につながる人道的休戦」が、40 カ国により共同提案され、賛成 121 カ国、反対 14 カ国、棄権 45 カ国、欠席 14 カ国により、圧倒的多数で可決された。決議全文など詳報

03 J・ハイン「ガザ危機で広がる欧米とグローバルサウスの溝」

国連総会「ガザ人道停戦」決議。投票結果には、数だけであわせない世界の動向が反映されいると、「積極的非同盟」路線を評価する元チリ外交官が、欧米とグローバルサウスの対立を分析する。

04 西谷修「『ガザ・ハマス問題の最終的解決』にてたイスラエル

これは戦争でなく難民手段の殲滅戦である。それにしてもアメリカ（合州国）はなぜこれほどまでにイスラエルを擁護し支持し続けるのか。文明史家の深い思索。

05 鈴木頌「BRICS の停戦への秘策？」

ガザ事態をウクライナと重ね合わせてダブルスタンダードだという意見が多くあるが、それらの多くは矛盾している。肝心な点はアメリカがいたるところで、いつまでも戦争を続けようとしていることにある。